

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立波多津小学校
1 前年度 評価結果の概要	・西部型授業を授業の基本とし、授業改善に取り組んだ。課題は、自己表現力の向上である。授業の中に発表や話し合い活動などの自己表現をする活動を意図的に仕組んでいかなければならない。 ・心の教育に関して、日頃の児童の様子からいじめや問題行動を察知できるよう手立てを取ることが必要である。また、挨拶や言葉遣いについては課題が見られるため、教師や児童会、保護者等が連携して改善していかなければならない。
2 学校教育目標	は：励んで光る た：愉しんで光る つ：つながって光る
3 本年度の重点目標	行動目標「3つの玉みがき」に取り組むことで、たくましく未来を切り拓く児童を育成する。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○表現力を養う活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 ○話をよく聞いたり、発表したりしている児童80%以上	・朝の時間や家庭学習を中心に三文作り等に取り組む。 ・ノーマディア・家読週間を設定する。 ・図書室のイベントやコーナー企画を行う。 ・低・中・高グループで国語科の全校授業研を行う。 ・他の教科等でも話し合い活動を取り入れる。	B	・三文作りは全校で取り組んでいる。 ・半数の学年で朝の時間、詩の音読に取り組んでいる。 ・ノーマディアは85%程度できている。 ・図書館祭りや読書月間に取り組んでいる。	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎めあてをもって学習活動や学校行事等に取り組む児童の育成	○保護者アンケートの「いじめに対する学校の取組」の評価を85ポイント以上 ○行事等では自分のめあてをもって取り組むと回答する児童90%以上	・運営委員会による挨拶運動の実施 ・「○○さん」と呼ぶ指導の徹底 ・自己肯定感を高める取組 ・心のアンケートと個別の面談を定期的に行い、早期発見に努める。 ・職員連絡会で気にしたい子の報告をして共通理解を図って対応する。	B	・1学期は運営委員会を中心とした挨拶運動に取り組んだ。2学期は新型コロナウイルス感染予防の観点から挨拶運動は自粛している。進んで挨拶ができる児童90%は達成できている。各学年ごとに挨拶運動を実施したい。 ・自己肯定感を高める本校の新しい取組として「特技集会」を計画している。	A	・友達を「○○さん」と呼ぶ児童が増えてきた。 ・特技集会を実施し、全校児童の目の前で表現する機会を確保した。発表者が安心して表現できる雰囲気づくりに努めることができた。 ・友達の気持ちを考えたり話し合い行動したりしている児童の割合が90%だった。	A	・特技集会で児童が自信をもつ機会があるのは、素晴らしいと思います。 ・言葉遣いや行動で思いやりがある児童が90%達成はよいと思います。 ・引き続き指導をお願いします。	生活部 生活部
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○目標をもって体力づくりに取り組む教育活動	●「健康に食事は大切である」と考える児童100% ○天気の良い日には外遊びをしたり一輪車の練習をしたりするなど、進んで運動ができる児童90%	・キャリアパスポート等を活用し学習や行事にめあてを決めて取り組ませ、達成に向けて努力するよう声を掛ける。 ・振り返りをさせ、学級通信などで紹介する。 ・健康には食が大切であると児童が認識するよう授業を委員会で行う。 ・給食試食会や健康教育の授業を行い、保護者も巻き込んだ取組を行う。 ・食育担当と担任が協力して食育の授業を行う。 ・体育委員会主催で、スポーツ・レクリエーションを行う。 ・健康タイムで一輪車の練習をしたり縄跳びをしたりして、児童の運動への意欲を高める。	A	・各学年の実態に応じて、学期や行事のめあてを決めさせ、意識できるようにしている。 ・自分のめあてに対する振り返りをさせ、学級通信などで紹介している。 ・栄養教諭と連携した授業や健康教育での食に関する授業を計画中であり、10月以降に実施予定である。 ・児童保健委員会で給食について学校の改善点を自分たちで出し合い、めあてを毎月決めている。	B	・各学年の実態に合わせて学期や行事のめあてを決め、意識させることができた。行事などでは自分のめあてをもって取り組むと回答した児童の割合が88%だった。	A	・児童や保護者に食への意識変化が見られてよかったです。 ・成果目標の数値表示がないので分かりづらいです。具体的取組はできていますが、コロナ禍では、まきこんだ取組は難しかったと理解します。	保健部 食育指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・業務記録票を基に勤務時間の管理をする。 ・定時退勤日の実質的な実践をする。 ・級外職員による業務支援や地域・保護者の支援を得て業務の効率化を行う。	B	・業務記録票を基に勤務時間の管理ができていた。9月から業務記録票を新しくし、より詳しく管理ができていた。 ・夏季休業中は業務の効率化を行い、職員の年休取得に努めることができた。 ・定時退勤日の実施については、17時には退勤できるよう、今後、取り組んでいく。 ・ICT関係や児童の個別支援等、級外の業務支援は十分である。保護者や地域の支援については、今後、予定している。	B	・9月から業務記録票を新しくし、より詳しく管理ができていた。定時退勤日としての取組は十分ではなかったが、1月は、時間外勤務の平均時間を多い月より10時間以上減らすことができた。 ・次年度の年間計画の見直しを行い、精選できる学校行事については、削減を行った。 ・次年度は、組織の見直しとともに、業務の偏りがないように計画をしている。	B	・教職員さんの業務の改善、働き方改革は難しいものがあると思っています。17時退勤に取り組んでいられていますが、実際はどうでしょうか。家に持ち帰って仕事をされている方がおられるのではないかと心配です。 ・定時退勤等メリハリを付けた取組は超過勤務対策のためにも定着された方がいいのではと思います。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○開かれた学校	○地域人材を活用した教育活動の推進	○全ての学年で効果的な地域人材活用を行う。	・年間カリキュラムを見直し、地域と連携した効果的な教育活動を計画する。 ・地域人材のリストを活用し職員間の情報共有を図る。	B	・コロナの感染状況により地域人材を活用しにくいのが、感染拡大が落ち着けば、積極的に活用していきたい。4年生が波多津の港に出かけ、餌やりや塩作りの体験を行った。 ・読み語りや町探検により、地域の人材活用を行っている。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上については、国語科の研究を中心に研究授業やその後の授業研究会、また、日常的な三文作りや読書指導を行い、一定の効果を上げることができた。来年度は、これまでの成果である対話活動の充実を生かし、算数科の研究に取り組む。 ・いじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談などで早期発見、早期対応に努めることができた。また、特技集会などの新たな取組により、児童の自尊感情を高めることができた。今後は、それらを生かし、元気な挨拶ができるように具体的な方策を検討していく。 ・健康・体づくりでは、本校の伝統である一輪車で全校統一のカードや遊具を準備することで、活性化することができた。次年度につなげていきたい。 ・働き方改革については、業務記録票の改善や定時退勤日の設定等を行ったが十分ではない。ICTの利活用を含め、業務改善に努めたい。地域人材の活用はコロナ禍で十分ではなかったが、総合的な学習の時間や図画工作科において、新たに近隣の企業からの協力を得ることができた。継続的な協力が得られるようにしていきたい。
--------------------	--